

建築×メディア× 全体主義

WIAS Top Runners' Lecture Collection

全体主義体制下における 建築とメディアの関係の独伊ソ比較研究

A Comparative Study of the Relationship between
Architecture and Media under Totalitarian Regimes
in Germany, Italy and the Soviet Union

2017年 2月25日 (土) 13:00~17:00

主催 : 早稲田大学高等研究所

会場 : 早稲田大学11号館9階902号室

講演者 : 鯖江秀樹(関西大学文学部非常勤講師)

田野大輔(甲南大学文学部教授)

本田晃子(早稲田大学高等研究所助教)

お問い合わせ : 高等研究所 本田 (honda_akiko@aoni.waseda.jp)

事前申込、参加費は不要です。どなたでもご聴講いただけます。

主旨

全体主義国家において、建築はしばしば指導者の権威や理想的共同体を表象する、プロパガンダ装置として機能してきた。とりわけ1930年代のドイツ、イタリア、ソ連邦では、首都改造を含む大規模な建設プロジェクトが次々に計画され、それらのイメージは（たとえ実現されなくとも）メディアを通じて広く流通することになった。

本セミナーでは、ドイツ、イタリア、ソ連邦の建築史ないしメディア論を専門とする研究者によって、このような当時の全体主義体制・建築・メディアの相互関係を、各国の事例を対照しながら読み解いていく。

プログラム

13:00 開会・趣旨説明 本田晃子

発表 田野大輔：「民族共同体」の視覚表現としての建築
——P・L・トローストとA・シュペーアを中心に

発表 鯖江秀樹：レトロスペクティヴ・モダニティ——
M・ピアチェンティーニの建築／イメージ

発表 本田晃子：ソヴィエト宮殿——不在の中心、増殖する
イメージ

15:15 休憩

15:30 講演者による討議

17:00 閉会

講演者プロフィール

鯖江秀樹

京都大学大学院人間・環境学研究科において博士（人間・環境学）取得。著作に『イタリア・ファシズムの芸術政治』（水声社、2011）など。

田野大輔

京都大学大学院文学研究科において博士（文学）取得。著作に『魅惑する帝国——政治の美学化とナチズム』（名大出版会、2007）など。

本田晃子

東京大学大学院総合文化研究科において博士（学術）取得。著作に『天体建築論——レオニドフとソ連邦の紙上建築時代』（東大出版会、2014）など。